【世界2】

古えの地の表情

場所ごとにさまざまな表情を見せる古えの地。巨像を捜して倒すだけではなく、穏やかな気持ちで各地を探索すれば、より深く本作を楽しめる。各地の特徴をその目に焼きつけよう。

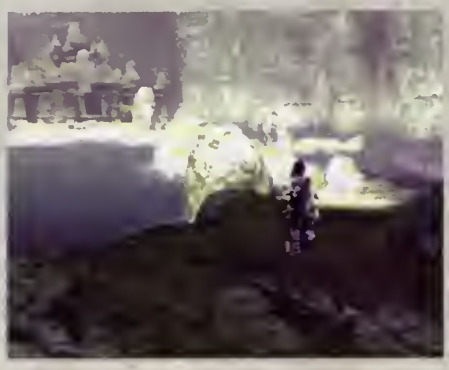
北の地　砂に覆われた乾いた土地

古の祠から橋を渡り、アーチ橋に沿って北に進むと、砂塵舞う砂漠が広がっている。1-Fの崖下には荒地が広がり、奥の建物には篝火が灯されている。また、1-Hには巨大な石造りの建造物が悠然と立っていて、文明の跡を感じさせる。砂に覆われている土地柄のためか、果樹や光る尻尾を持つトカゲの数は少ない。

砂漠が広がる北の大地　遮蔽物がなく、視界が良好なため、道に迷う心配は皆無だ。

南の地　緑生い茂る小動物の楽園

豊かな緑が広がる南の大地。光る尻尾を持つトカゲが多数生息しており、果樹も豊富に立ち並ぶ。最南端には大きな門が立っているが、15体目の巨像を倒すまではこの門を開くことはできない。6-Dと6-Gでは、石造りの建造物から地下に入ることができる。5-Cにある橋を通って、西の地へ向かうことも可能だ。



川が流れ、さまざまな植物が生い茂っている6-G。旅の疲れを癒す美しい風景だ。

西の地　個性的な表情を浮かべる

場所ごとに個性的な表情を見せる西の大地。2-Cには霧に包まれた巨大な湖、4-Bにはドーム上の砂地、1-Dには暗く巨大な沼、3-Dには間欠泉が噴き出す赤い大地が広がっている。果樹は多く、光る尻尾を持つトカゲも数多く生息している。2-D周辺の脇路は複雑に入り組んでいるため、頻繁にマップを確認しながら進むように心がけておくといい。

見晴台の数も多いので、立ち寄って周囲の景色を眺めておくといいだろう。5-Bの見晴台からの景色は絶景。

東の地　幻想的な風景が広がる土地

東の地の1-Iから5-Iにかけては、崖に行く手を阻まれているため移動することはできない。この場所はマップ上でも雲に覆われており、巨像を倒しても晴れることはない。移動可能な範囲が狭いこともあり、見晴台と果樹の数は少なく、光る尻尾を持つトカゲの生息数も少ない。4-Hには巨大な湖、5-Gには墓地のような緑地が広がっている。

2-Gには貯水池のような水深の深い場所がある。滝つぼに落ちるとゲームオーバーとなるので気をつけよう。

【世界3】

巨像マップ

古えの地には、計16体の巨像が生息している。巨像を倒すと、倒した巨像の顔のアイコンがマップに表示される。また、巨像を倒すとその場所から光の帯が天に伸びるようになる。

【巨像一覧】

1 第1の巨像　2 第2の巨像　3 第3の巨像　4 第4の巨像　5 第5の巨像　6 第6の巨像　7 第7の巨像　8 第8の巨像

9 第9の巨像　10 第10の巨像　11 第11の巨像　12 第12の巨像　13 第13の巨像　14 第14の巨像　15 第15の巨像　16 第16の巨像

【世界4】

見晴台マップ

記録を保存すると、その見晴台の場所がマップに表示されるようになり、データに見晴台のある地名が書き込まれる。祈りを捧げただけでは地名は書き込まれないので要注意。

【見晴台の地名一覧】

1 北西端の盆地	5 北の寺院	9 西の平原	13 崖沿いの小路	17 古跡臨む丘	21 南西端の岬
2 穴岩の渓谷	6 水がめの滝	10 丸岩の丘	14 高台の巣穴	18 枯葉の森	22 果ての平原
3 霧の沼	7 峡谷の入り口	11 西の巣穴	15 西の岬	19 渓谷の平地	23 緑の岬
4 北の橋脚	8 北東の平野	12 石橋の崖	16 反橋の平原	20 南東の断崖	24 閉ざされし門

【世界5】

果実マップ

果実の種類は下にある8種。どの果実も入手したときの効果は同じだ。だが、庭園（→P168）でしか入手できない禁断の実は、体力と腕力の最大値が減少するという特殊な効果を有する。

【果実一覧】

果物A　果物B　果物C　果物D　果物E　果物F　果物G　禁断の実

【世界6】

光る尻尾を持つトカゲマップ

光る尻尾を持つトカゲを矢で射ると、尻尾が地面に残る。この尻尾を入手すると腕力の最大値が増加する。尻尾だけを射るのは技術を要するが、本体ごと倒しても尻尾は入手できる。

トカゲの尻尾は再生する

トカゲの尻尾に狙いを定め、本体を倒さないように弓を射れば、何度でも尻尾を手に入れることができる。トカゲの尻尾は、ゲーム中時間で24時間が経過すると再生するという性質を持つからだ。この性質を利用すれば、無限に尻尾を入手することも可能だ。ただし、必ず倒した場所から一定の距離を置く必要がある。倒した目の前で時間の経過を待っていても、尻尾が再生することはないので注意。

【世界7】

小さな命

各地を探索していると、さまざまな生き物を目にすることができる。巨像との戦いに疲れたら、古えの地で静かに育まれている、小さな生き物たちを捜してみるといいだろう。

小動物との戯れ

鳶と鳩、そして魚に近づいてR1ボタンを押すとつかむことができる。鳶か鳩につかまれば、そのまま大空を飛ぶことも可能だ。つかまっているあいだは、ワンダの体重で除々に高度が下がるものの、腕力がゼロになるか、足が地に着くまで飛行できる。オススメの滑空ポイントは、鳶が多数飛び回っている4-Bにある崖の上。

崖の上から飛び立てば、長時間の空中浮遊が楽しめる。ぜひ一度お試しあれ。

アグロの変化

ワンダのもっとも身近にいる動物、アグロ。じつは、アグロには隠された秘密がある。本作の開発チームが2001年に手がけたプレイステーション2用ソフト、『ICO』のセーブデータがある状態でゲームを始めると、アグロの額にある模様が変化。通常はひし形の模様なのだが、『ICO』の"I"の文字を象った模様となるのだ。

プレイの途中でメモリーカードを差し替えても、模様の変化は起こらない。

地を這うトカゲ

日が差し込まない場所に生息していることが多いトカゲ。古えの地には体が黒一色のものと尻尾が光っているものの2種類が存在する。前述したとおり、光る尻尾を入手すると腕力の最大値が増加する。光る尻尾を持つトカゲは、見晴台周辺に必ず最低1匹は生息しているので、見晴台を訪れたときには光るトカゲを狩るように心がけておくといい。

大空を舞う鳥たち

古えの地には、鳶、カモメ、鳩の3種類の鳥が生息している。鳶は古の祠周辺を始め、各地を飛び回っている。また、カモメはおもに海辺に生息。そして、鳩は巨像を倒すと魂を失った少女の近くに現れ、巨像を倒すごと数が増えるという一風変わった特徴がある。ちなみに、難度が高く利点は何もないが、どの鳥も矢で射落とすことが可能だ。

悠然と歩き回るカメ

ゆっくりと動き回り、ほっとした気分を与えてくれるカメ。水中ではなく、陸上に生息している。おもな生息場所は3-C。アグロに騎乗しながら移動していると、岩と勘違いして気づかないことが多い。近づくと頭と手足を甲羅の中に引っ込めて動かなくなるという特徴がある。ちなみに、剣を突き刺しても矢を射っても甲羅に弾かれてしまう。

水中を遊泳する魚

古えの地に生息する2種類の魚。頭が大きい寸胴型の魚と、大きいヒレが特徴的な細身の魚が存在する。川や湖に生息しており、とくに6-Gでは多くの魚を目にすることができる。魚には、R1ボタンで泳ぎながら接触すればつかむことが可能だ。また、魚が水面に浮上した瞬間に矢を射れば倒すこともできる。魚は矢が当たると水底に沈み、動かなくなる。

洞窟を飛び回るコウモリ

4-Bにある洞窟内に生息しているコウモリ。この場所でしか姿を見ることができない珍しい生物だ。洞窟内を複数体がまとまって飛び回っているものの、姿が小さいので注意深く観察しないと外見はよくわからない。ほかの生き物とは異なり、触れることができず、剣で斬りつけても手応えはない。また、矢を当てることもできない。

豊かな表情を見せる植物

針葉樹や広葉樹、シダ植物など、多種多様な形の植物。古えの地には、じつに多くの植物が大地を彩っている。同じ植物でも、生息している場所や日光の加減により、さまざまな表情を見せる。幹を斬ったり、葉を刈ったりすることはできないが、美しい植物は旅の疲れを癒してくれる。各地で育まれている小さな命に目を向けてみるのも一興だ。

第三章 巨像

呪われしさだめ 生贄となった少女
失われてしまった魂 離れてしまった魂
いにしえの剣に宿る希望 圧倒的な存在との戦い

第1の像

光のもとでその剣をかざすがよい……そして剣の光が集まる場所に向かうのだ

【第1の巨像】

特徴と対策

ミノタウロスのような姿。全身のほとんどが体毛で覆われているため、よじ登るのは比較的簡単だ。臀部と肩甲骨周辺には出っ張りがあり、腕力を回復させるときに重宝する。

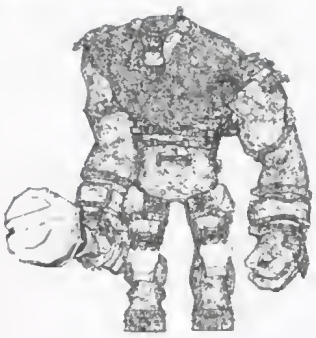
巨像の急所と弱点

左足の急所を攻撃すると巨像が膝を落とし、さらに攻撃を加えると跪かせることができる。弱点は頭部の1ヵ所のみで、最大まで力を溜めて剣を突き立てれば3回の攻撃で倒せる。初めて対峙する巨像だけあって、撃退にはさほど苦労しない。また、ハードモードでは頭部のほかに右腕の肘にも弱点が追加される。右腕から上っていくことも可能だが、頭部にある弱点を攻撃し終わってから肩に移動し、そこから落下してしがみつくといいだろう。

ステージ

古の祠から南に見える崖の上が戦場となる。広場の周囲は高い崖で囲まれている。崖際の岩陰や広場の奥にある建造物に巨像が近づいてくることはないので、ダメージを食らったら逃げ込んで体力を回復するといい。

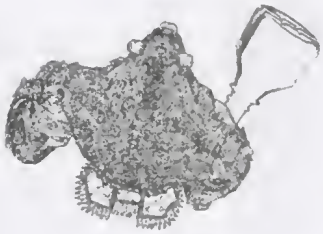
四面図



【前面】

【後面】

【右側面】



【上部】

左足のふくらはぎにある体毛から巨像につかまり、腰から背中の順に登って頭部を目指すことになる。頭部にたどり着くまでのあいだ、巨像が大きく揺れることはないので、落下の危険は少ない。背中につかまっていると巨像が左右に揺れるが、出っ張りにいる場合は、振り払う行動を起こさないという特徴がある。巨像が歩いているあいだは多少揺れるものの、しゃがんでいれば落ちる心配はない。ここで腕力を回復してから頭部の弱点を目指そう。

振り落とし行動一覧

行動　前屈みから、頭を大きく後ろに反る
└条件　ワンダが頭に触れている

行動　前屈みになり、胸を左右交互に突き出すように振る
└条件　ワンダが首、背中、腰に触れている

行動　右肩を大きく円を描くように動かす
└条件　ワンダが右肩に触れている

行動　左肩を大きく円を描くように動かす
└条件　ワンダが左肩に触れている

行動　右腕を前から勢いよく後ろに引く
└条件　ワンダが右腕、根棒に触れている

行動　左腕を前から勢いよく後ろに引く
└条件　ワンダが左腕に触れている

行動　左足を上げて前後に振る
└条件　ワンダが左足の膝から下に触れている

行動パターン

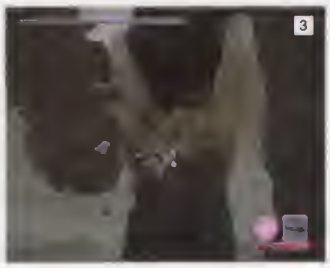
ワンダを発見していないときは、広場を往復するように歩き続ける。戦闘開始場所にある岩陰に隠れると巨像はワンダを見失い、広場を周回し始める。体力が残り少なくなったら、この場所に隠れてやり過ごすといい。また、奥にある建造物の近くに移動した場合、巨像に見つかっていても攻撃を仕掛けてくることはない。

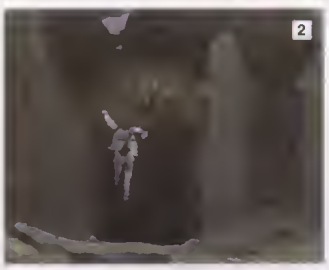
攻撃方法

ワンダとの距離が遠い場合、右手に持っている棍棒を振り下ろしてくる。直撃を食らうと体力を大きく奪われるので、視点を変更しながら巨像の動きを見極めること。直撃を免れても振動によってダメージを食らうので、大げさに距離を取るといいだろう。至近距離にいる場合、足を踏みつける攻撃を仕掛けてくる。

対処法

巨像の左足のふくらはぎから登っていくことになるので、背後から近づいたほうが安全。巨像に気づかれないように背後へ近づき、ジャンプして体毛につかまろう。巨像に発見されたときは、足下まで一気に走って近づき、強引に後ろに回り込むといい。左足の急所を攻撃すれば動きが止まるので、大胆に行動しよう。





巨像攻略方法

1〜4　巨像に気づかれないように背後から近づき、ジャンプして左足の体毛につかまろう。巨像の視界に入るほか、矢を当てたり、口笛を吹くと気づかれてしまうので注意。ふくらはぎにつかまったら、急所を攻撃。力を溜める必要はないので、すぐに剣を突き刺すこと。**5〜11**　急所を刺して巨像を跪かせたら、太股にある出っ張りにつかまり、体毛をよじ登って腰まで移動。腰の出っ張りで腕力を回復しておけば、安全に背中まで登ることができる。しゃがんで腕力を回復すれば回復速度が増し、体勢を崩される心配もない。**12〜14**　頭部に到着したら、すぐに弱点を攻撃。ただし、ワンダが頭部にいるときは、巨像が頭を上下に振る。剣を突き刺せば動きを止められるので、巨像が頭を下げたら力が溜まりきっていなくても剣を突き刺すのが得策だ。

ハードモード

ノーマルモードと同様、左足につかまり、頭部までよじ登る。頭部の弱点を攻撃後、肩から背中周辺で腕力を回復し、右肩から落ちて右肘にある弱点へ。弱点を攻撃中、腕力が残り少なくなった場合は、すぐ上にある出っ張りに移動して腕力を回復すること。

その他の倒し方

巨像が左足の踏みつけを仕掛けてくる際、右腕が大きく下がる。このときに棍棒の頭頂部に飛びつけば、棍棒の上部によじ登ることが可能だ。棍棒から右腕につかまり、体毛部分をよじ登っていけば、頭部にある弱点にたどり着くことができる。

第2の巨像

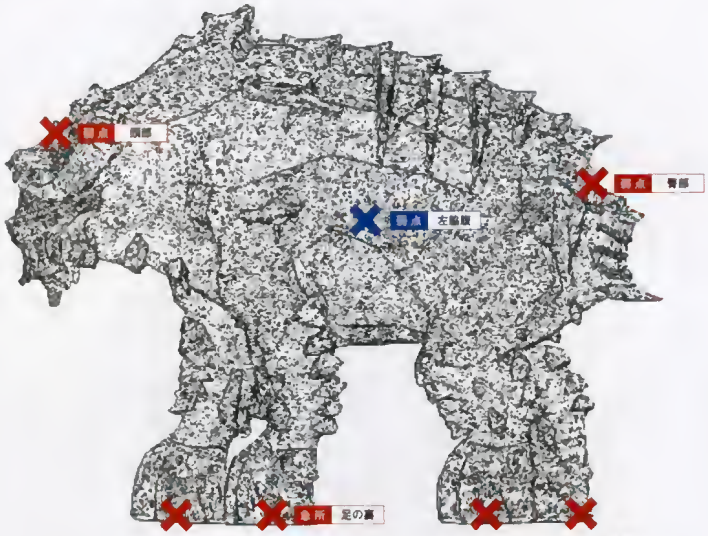
海辺の洞穴……動き鈍きモノ……勇気を持って倒すがよい……

【第2の巨像】

特徴と対策

アグロとともに戦うことができる初めての巨像。マンモスのような外見の四足歩行の巨像で、見た目どおり動きは鈍い。蹄部分と腹部を除き、ほとんどの部位に体毛が生えている。

巨像の急所と弱点



【左側面】

足の裏はすべて急所となっている。巨像が足を上げた瞬間を狙い、弓で射抜けば膝をつかせることが可能だ。弱点は背部と頭部の2ヵ所。どちらの弱点から攻撃しても問題ないが、巨像を倒すにはすべての弱点を紋様が消えるまで攻撃する必要があるので注意。ハードモードでは、左の脇腹に弱点が追加。高い場所にある弱点から順に攻撃すると効率がいいので、背部、頭部、脇腹の順番に攻撃しよう。低い場所に移動するときは、手を離して落下すること。

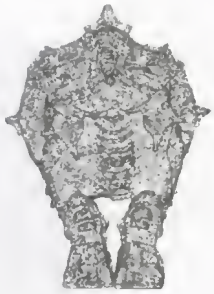
ノーマルモード　ハードモード

ステージ

古の祠の北にある橋を渡った先の海岸が戦いの舞台。崖際までは巨像が近づいくることはないので、危なくなったら逃げ込むといい。ちなみに、波打ち際ではワンダが転んでしまい、思うように動くことはできない。

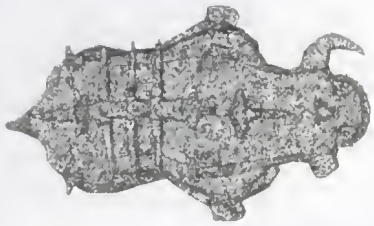
四面図

【前面】



【後面】

【右側面】



【上部】

巨像の体勢が低くなった際、アグロ騎乗中に背中に立ってジャンプを行えば、膝部分の体毛にしがみつくことができる。ただし、難度が高いのでオススメはできない。足の裏の急所を射抜き、巨像の体勢を変えるのが得策だ。急所を攻撃すると、巨像は射抜かれた足を曲げ、約20秒うずくまる。この隙に膝に生えている体毛にしがみつけば、膝の体毛から胴体までよじ登れる。腕力を回復するときには、足の付け根の出っ張りと背中で休むといい。

振り落とし行動一覧

行動　頭を左右に大きく振る
└条件　ワンダが頭、顔に触れている

行動　体を軽く沈め、細かく左右に振る
└条件　ワンダが首、背中、顔、尻尾に触れている

行動　右前足を上げて前後に振る
└条件　ワンダが右前足に触れている

行動　左前足を上げて前後に振る
└条件　ワンダが左前足に触れている

行動　右後ろ足を上げて前後に振る
└条件　ワンダが右後ろ足に触れている

行動　左後ろ足を上げて前後に振る
└条件　ワンダが左後ろ足に触れている

行動パターン

移動速度は低いので、簡単に背後に回り込むことができる。また、アグロに騎乗して移動を行えば、機動力で遅れを取ることはない。アグロに乗って大きく離れたあとに剣をかざせば、安全に弱点が捜せる。崖際の段差まで追いかけてくることはないので、大ダメージを食らったときには岩陰に隠れるといいだろう。

攻撃方法

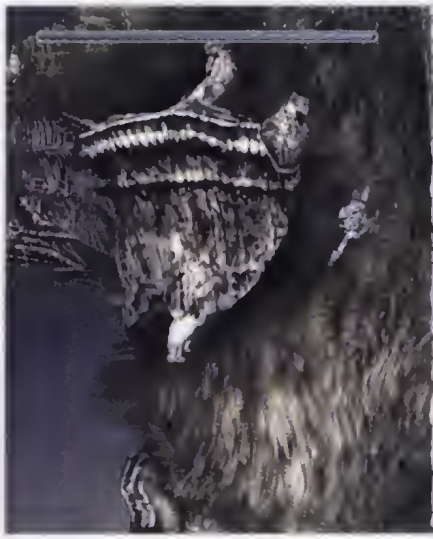
ワンダが正面にいる場合、両前足を振り上げたあとに踏みつけ攻撃を仕掛けてくる。両前足を上げたあと、ワンダとの距離が離れると踏み込んで距離を調節してくる。そのため、攻撃をかわすときには、離れるよりも左右に回り込むこと。ちなみに、足を振り上げたときは、一瞬動きが止まるので急所を射抜きやすい。

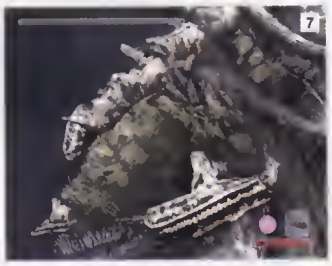
対処法

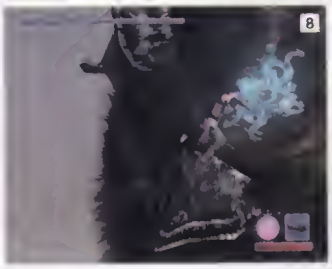
足の急所を射抜くには、踏みつけ攻撃を誘うか、背後に回り込んで足を上げた瞬間を狙うしかない。どの足を射抜いても体勢を崩せるが、背後に回り込んで後ろ足を狙ったほうが攻撃を食らう心配がないのでオススメだ。弓を引いた状態で照準を足に合わせ、足が上がった瞬間に矢を放てば簡単に急所を射抜ける。

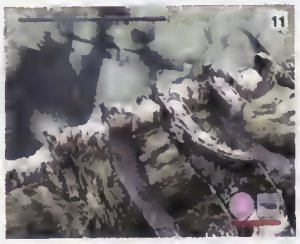
巨像攻略方法

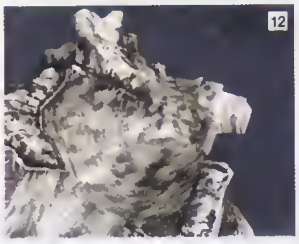
1～3　まずは足の裏にある急所を弓で射抜き、膝をつかせる必要がある。最初に臀部の弱点を攻撃したほうが移動が楽なので、後ろ足を狙うこと。背後に回り込み、足が上がったところを射抜こう。**4～7**　急所を射ると、膝に生えている体毛につかまれるようになる。足をよじ登り、付け根付近にある出っ張りで腕力を回復させよう。**8～14**　最大まで力を溜めて、臀部の弱点に剣を3回突き刺す。紋様が消えたのを確認したら、背中へ移動して腕力を回復。腕力回復後、頭部までは背中の上を走って移動。背中にある突起物は、ジャンプしてつかまれば乗り越えられる。最大まで力を溜めて、頭部の弱点に剣を3回突き刺せば巨像を倒すことができる。ただし、巨像は定期的に頭を振るので、腕力の残量に注意を払って行動すること。

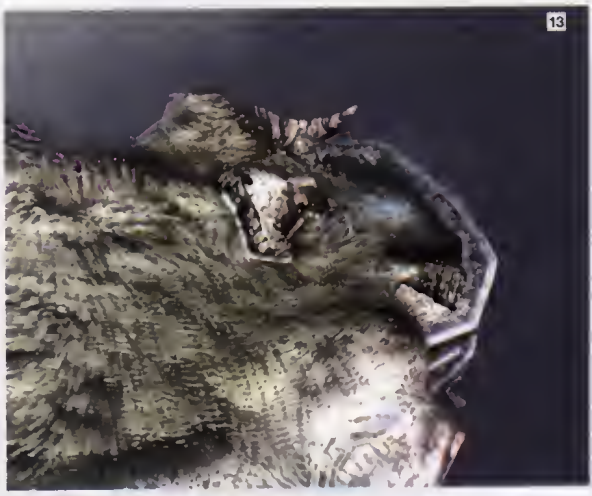










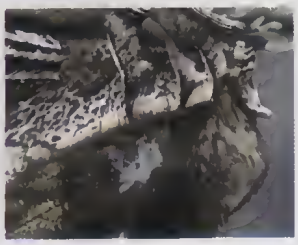


その他の倒し方

巨像は、前足を踏みつける攻撃を行ったあとに体が沈み込む。このとき、アグロの背中に立ったまま巨像の後ろ足に近づいて飛びつけば、急所を攻撃しなくても膝上の体毛をつかめる。巨像の正面から斜めに突っ込んで後ろ足に向かうと成功しやすい。

ハードモード

急所の位置に変化はないが、弱点が左脇腹に追加される。弱点を攻撃する順番は、背部、頭部、左脇腹の順がもっとも効率がいい。頭部の弱点を攻撃したあと、背中の左側にある出っ張りから落下すれば、一瞬で左脇腹の弱点へ到達することが可能だ。



第3の巨像

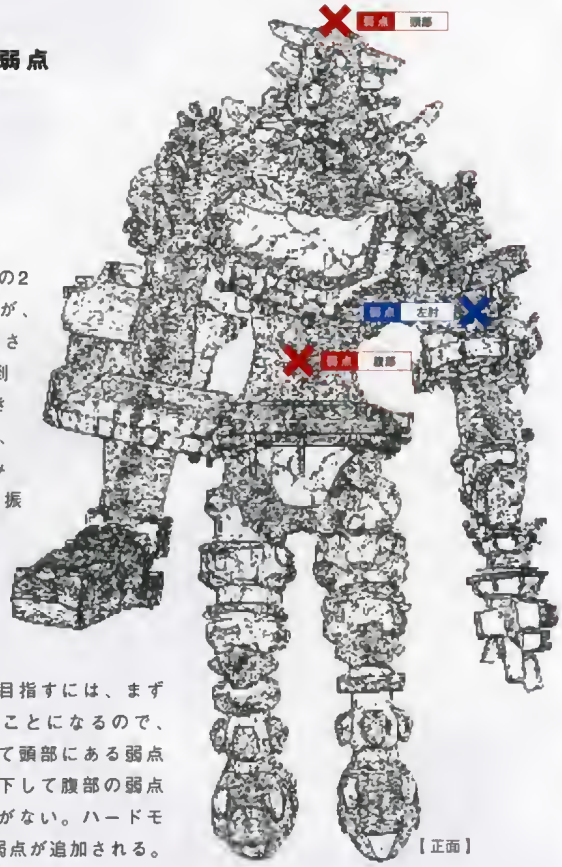
天にそびえる巨大な天蓋……眠るる巨人の怒り……地をも砕く……

【第3の巨像】

特徴と対策

背の高い人型の巨像。右腕が剣のような形状となっているのが最大の特徴。上半身は体毛に覆われているものの、下半身は出っ張りがあるだけで、ほとんど体毛が生えていない。

巨像の急所と弱点

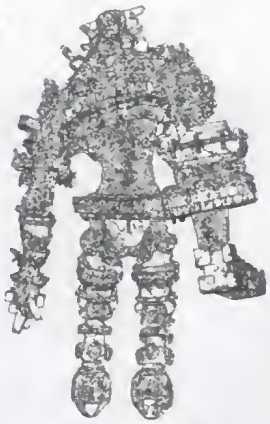


弱点は頭部と腹部の2ヵ所。急所はないが、右肘部分の鎧を壊さない限り、弱点に到達することはできない。そのため、巨像の体にしがみつく前に、右腕の振り下ろし攻撃が天蓋の中央付近にある石版に当たるように攻撃を誘発させる必要がある。弱点を目指すには、まず右腕からよじ登ることになるので、一気に駆け上がって頭部にある弱点を攻撃し、腰に落下して腹部の弱点を攻撃すると無駄がない。ハードモードでは、左肘に弱点が追加される。

ステージ

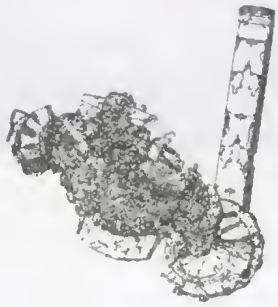
湖畔に浮かぶ円形状の天蓋。外周は巨像が出現する場所よりも低くなっているので、ここに移動すれば巨像に見つかることはない。操作を誤って湖に落ちても、ゲームオーバーになることはないので安心して移動できる。

四面図


【後面】

【左側面】

【右側面】


【上部】

注意しなければならないのは、右腕を上下に振る動き。とくに、右腕の剣を移動するときは、つかめる部分が少ないため振り落とされやすい。剣の上でしゃがみ状態となるのも手だが、巨像が右腕を振り終わるまで剣の側面にしがみつくほうが安全だ。上半身に到達すると、巨像がワンダを振り落とそうと暴れるが、前屈みになってから行動するという特徴がある。巨像が前屈みになったら、すぐに体毛につかまって揺れに備えるといい。

振り落とし行動一覧

行動　前屈みになり、頭を左右に細かく振る
└ 条件　ワンダが頭、首に触れている

行動　軽く前屈みになり、体を左右に大きく振る
└ 条件　ワンダが胸、背中、腹、腰に触れている

行動　右肩より先を激しく上下させる
└ 条件　ワンダが右肩、右腕、剣に触れている

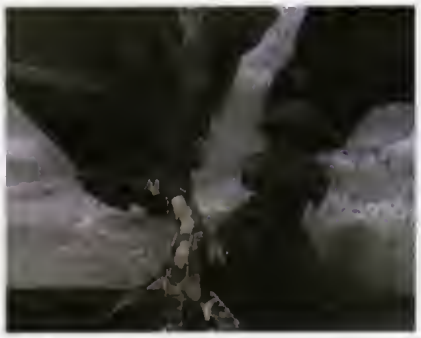
行動　左肩より先を大きく上下させる
└ 条件　ワンダが左肩、左腕、左手に触れている

行動パターン

ワンダが近くにいるときは、足を踏みつける攻撃を仕掛けてくる。また、右腕の剣を突き刺す攻撃を仕掛けてくることもある。ワンダとの距離があり、かつ中央付近にいる場合は、右腕を振り下ろす攻撃を繰り出す。外周の段差に移動するとこちらを見失うので、体力が残り少ないときは外周に逃げ込むのが得策だ。

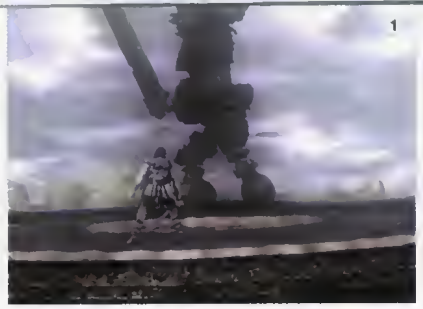
攻撃方法

攻撃をかわすには、巨像の動きを観察しながら、とにかく走り続けること。右腕の振り下ろし攻撃は、リーチが長いので剣を横にかわすように行動するといい。ただし、直撃を避けても距離が近い場合は、振動でダメージを食らってしまう。巨像の右腕が地面にぶつかる瞬間にジャンプを行い、揺れをかわそう。



対処法

まず、右腕の振り下ろし攻撃を石版に誘発させて右肘の鎧を破壊。そのあと、再び右腕の振り下ろし攻撃を誘発させて、地面に突き刺さった剣の上を駆け登っていくことになる。ただし、巨像との距離が近いと踏みつけ攻撃を仕掛けてくる。巨像を外周に誘導後、一気に石版に移動すると振り下ろし攻撃を誘発させやすい。

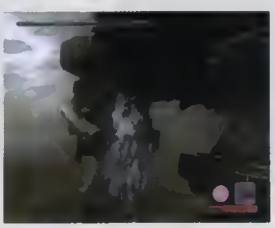


巨像攻略法

1〜4　まず、右腕の振り下ろし攻撃を石版に命中させて、右肘の鎧を破壊。このあと、再度右腕の振り下ろし攻撃を誘う。攻撃を地面に当てさせる必要があるので、巨像が振りかぶったら必ず石版から離れるように。剣が地面に突き刺さっている隙に剣の上へ。
5〜9　右腕の体毛にしがみつき、巨像の肩までよじ登っていく。途中、右肘の鎧部分で腕力を回復。このあと、右肩から背中に移動すること。背中は面積が広いので、ここで腕力を最大まで回復して頭部にある弱点へ。頭部にしがみついていると巨像が大きく頭を振るので、腕力が残り少なくなったらすぐに背中に移動すること。**10〜14**　頭部にある紋様が消えたら、背中から腰部の体毛に向かって落下。巨像が前屈みになった瞬間に落下すれば、腰部の体毛をつかめる。出っ張りを移動して腹部に回り込み、最大まで力を溜めて剣を4回突き刺せば、巨像を倒すことができる。

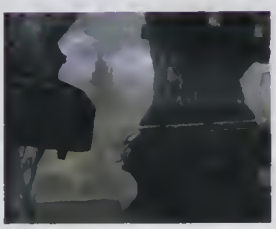
ハードモード

頭部、左肘、腹部の順に弱点を攻撃すると効率がいい。頭部の弱点を攻撃後、背中で腕力を回復。左上腕部の出っ張りから落下して、肘にある体毛をつかむ。左肘の弱点を攻撃後、腰部の出っ張りへジャンプし、腹部の弱点へ移動して剣を突き刺そう。



その他の倒し方

じつは、右腕の鎧を壊さずに弱点まで移動する方法がある。右腕まで移動したあと、巨像が腕を上下に動かした際、もっとも右腕が腰に近づいた瞬間にジャンプすると、腰部の出っ張りをつかめるのだ。また、右腕の鎧を飛び越える方法もある(→P161)。



7

8

9

10

11

12

13